

日本ダクティル異形管 工業会が設立60周年

日本ダクティル異形管工業会 村瀬充氏に聞く

日本ダクティル異形管工業会は、1962年（昭和37年）に設立してから、今年で60周年を迎えた。会員企業の高い技術力を背景に、水道事業者のニーズに対応して情報提供を行い、水道水の安定供給や耐震管路の構築、管路システムの高度化などに貢献してきた。そこで本紙では同工業会の村瀬充会長（村瀬鉄工所社長）にこれまでの歩みと今後の役割について話をうかがった。



日本ダクティル異形管工業会 会長 村瀬充氏

日本ダクティル異形管工業会は、1962年1月24日「水道用鑄鉄異形管工業会」として設立され、その後、1982年4月6日、現在の「日本ダクティル異形管工業会」に改称し、今日に至る。

なす付属施設との接合が異形管の主な役割となります。管路は道路形状に応じて曲げて布設しなければならぬため、異形管は管網は構築できません。用途としては、上水道の送配水管、浄水場内配管、下水道の処理場内配管、圧送管が多く、流量の多い工業用水や農業用水、ガス用などもあります。

「当会は1982年に現在の名前前に改称しました。名前にもありますダクティル鑄鉄は、球状黒鉛鑄鉄とも呼ばれているもの証として、当会のマークの使用を日本水道協会申請の上を主な目的としてその活動を始めました」と設立の背景を説明する。

多種にわたる異形管について「異形管とは、読んで字のごとく、異なった形の管ということで、曲がっている管や分岐する管の形の管など、様々な形状の管があります。管路の曲がり部や接合の異なる管の接合、バルブ

量の供給から品質の確保へ 次の世代に安心をつなぐ

集中、産業構造が大きく変わる中で、上水道、工業用水道における水需要が急激に拡大しました。水道用ダクティル異形管業界に新規参入する製造業者も増えてきた時期であり、当会では会員企業の製造技術や品質の向上を主な目的としてその活動を始めました」と設立の背景を説明する。

「異形管とは、読んで字のごとく、異なった形の管ということで、曲がっている管や分岐する管の形の管など、様々な形状の管があります。管路の曲がり部や接合の異なる管の接合、バルブ

量供給から品質の確保へ

「当会では1982年に現在の名前前に改称しました。名前にもありますダクティル鑄鉄は、球状黒鉛鑄鉄とも呼ばれているもの証として、当会のマークの使用を日本水道協会申請の上を主な目的としてその活動を始めました」と設立の背景を説明する。

「異形管とは、読んで字のごとく、異なった形の管ということで、曲がっている管や分岐する管の形の管など、様々な形状の管があります。管路の曲がり部や接合の異なる管の接合、バルブ

「異形管とは、読んで字のごとく、異なった形の管ということで、曲がっている管や分岐する管の形の管など、様々な形状の管があります。管路の曲がり部や接合の異なる管の接合、バルブ

「異形管とは、読んで字のごとく、異なった形の管ということで、曲がっている管や分岐する管の形の管など、様々な形状の管があります。管路の曲がり部や接合の異なる管の接合、バルブ

「異形管とは、読んで字のごとく、異なった形の管ということで、曲がっている管や分岐する管の形の管など、様々な形状の管があります。管路の曲がり部や接合の異なる管の接合、バルブ

「異形管とは、読んで字のごとく、異なった形の管ということで、曲がっている管や分岐する管の形の管など、様々な形状の管があります。管路の曲がり部や接合の異なる管の接合、バルブ

「異形管とは、読んで字のごとく、異なった形の管ということで、曲がっている管や分岐する管の形の管など、様々な形状の管があります。管路の曲がり部や接合の異なる管の接合、バルブ

「異形管とは、読んで字のごとく、異なった形の管ということで、曲がっている管や分岐する管の形の管など、様々な形状の管があります。管路の曲がり部や接合の異なる管の接合、バルブ

「異形管とは、読んで字のごとく、異なった形の管ということで、曲がっている管や分岐する管の形の管など、様々な形状の管があります。管路の曲がり部や接合の異なる管の接合、バルブ